

医療・防災情報シンポジウム ～JGN-Xを活用した遠隔医療・防災情報～

主旨：東日本大震災からの経験を踏まえて、それに対する遠隔医療など ICT を活用した（被災地）医療の取り組みを紹介し、今後の大規模災害（東海・東南海・南海地震など）への課題や ICT への期待、将来の展望などを検討します。

シンポジウムは、情報通信研究機構(NICT)の「**新世代通信網テストベッド JGN-X**」を利用し、岩手会場と高松会場を結んで実況中継いたします。

日時：平成 24 年 3 月 2 日(金) 10:00～17:35

会場：岩手県立大学アイーナキャンパス学習室 1（盛岡駅西口）

（岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 いわて県民情報交流センター（アイーナ）7 階） TEL：019-606-1770

プログラム

《開会挨拶》

・10:00～10:10 岩手県立大学ソフトウェア情報学部学部長 伊藤 憲三 氏

《講演》

・10:10～10:30 「JGN-X により岩手県と香川県が超高速ネットワークで接続されたが、このネットワーク基盤を活用して、今後の両地域の医療 IT・遠隔医療の連携をいかに発展させるか」
香川大学瀬戸内圏研究センター 特任教授 原 量宏 氏

・10:30～11:00 「これまで香川県で開発してきた医療 IT 技術、特に K-MIX の基本的機能、電子処方せん・電子お薬手帳、糖尿病地域連携パス等の事例紹介」
徳島文理大学香川薬学部 教授 飯原 なおみ氏

・11:00～11:30 香川大学医学部先端医療・臨床検査医学 教授 村尾 孝児 氏

・11:30～12:00 「医学領域における 3D 高精細動画伝送システムの開発とその応用」
札幌医科大学第一解剖学講座 教授 辰巳 治之 氏
— 休憩 —

・13:00～13:30 「東日本大震災における宮城県内の ICT を活用した情報支援活動の実態と課題
— 災害ボランティアセンター支援から仮設住宅支援へ —」
大妻女子大学人間関係学部 教授 干川 剛史 氏

・13:30～14:00 東日本大震災における岩手県内の ICT の現状と今後の課題
岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授 柴田 義孝 氏
— 休憩 —

《パネルディスカッション》（パネルディスカッション詳細は裏面をご覧ください）

・14:10～16:00 「被災地の復興、東海・東南海・南海地震想定域の取り組み
と ICT を活用した地域支援、地域間連携、（遠隔）医療への期待、展望」

・16:00～16:30 岩手県での医療 IT の事例「この度の震災で威力を発揮した、周産期電子カルテネットワーク・電子母子手帳「いーはとーぶ」
岩手県立大船渡病院 副院長 ※WebTV 会議による遠隔講演 小笠原 敏浩氏

《特別講演》

・16:30～17:30 岩手医科大学 学長 小川 彰 氏
(遠隔対談) 香川大学 学長 長尾省吾 氏
(まとめ) 香川大学瀬戸内圏研究センター 特任教授 原 量宏 氏

《閉会挨拶》

岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授 柴田 義孝 氏

《申込方法》参加希望者は、地域防災情報研究所（担当：木村）宛て、所属・職名・氏名を記載のうえ、Eメールにてお申込みください。参加料無料、先着 60 名、当日受付可、【申込先アドレス：m-kimura@ipu-office.iwate-pu.ac.jp】連絡先：019-694-2596 締め切り：2月29日(水)

主催：岩手県立大学 総務省四国総合通信局 四国情報通信懇談会 ICT 研究交流フォーラム
後援：岩手医科大学 香川大学香川県医師会、ヘルスケアイノベーションフォーラム (HCIF)
経済産業省四国経済産業局 協賛：独立行政法人情報通信研究機構(NICT)

パネルディスカッション

・14:00~16:00 「被災地の復興、東海・東南海・南海地震想定域の取り組み
と ICT を活用した地域支援、地域間連携、（遠隔）医療への期待、展望」

盛岡会場

コーディネーター:

岩手県立大 ソフトウェア情報学部

柴田 義孝 教授

パネラー:

情報通信機構テストベッド研究開発推進センター

下條 真司 センター長

大妻女子大学人間関係学部

干川 剛史 教授

静岡県立大経営情報学部経営情報学科

湯瀬 裕昭 准教授

特定非営利活動法人ゴーフォワードジャパン

大橋 裕司 理事長

高松会場:

コーディネーター:

高知工科大学情報学群

福本 昌弘 教授

パネラー:

香川大学危機管理研究センター

白木 渡 教授

高知県医療政策部医療政策・医師確保課、

高知医療センター地域医療科科长

澤田 努 医師